

歴史・文化サイトカード

通しNo.		1-C-5		更新日	2025/2/20
サイト名		『出雲国風土記』にある犬石・猪石 さいしいこう と祭祀遺構～石宮神社、女夫岩遺跡 めおといわ			
基本情報	区分	☐ 有形 ☐ 無形 ☒ その他			
	所在地	石宮神社: 松江市宍道町白石638 女夫岩遺跡: 松江市宍道町白石3313-1			
	指定別	「女夫岩遺跡」県指定			
	種別	史跡			
	指定／登録年月日	1997(平成9)年3月28日			
	管理団体／モニタリング	大森神社、松江市			
	周辺施設／アクセス	☐ トイレ ☐ 売店 ☐ 飲食店 ☐ 駐車場(台)			
留意点					
サイトの解説	歴史・文化	石宮神社は、『出雲国風土記』にある宍道社が元の神社名だと考えられている。意宇郡宍道郷の条には大穴持命(大国主命(おおくにぬしのみこと))が狩をされた時、追いかけられた猪と追いかけた犬も石となったとある。それがそのままあるので猪の像のあるところという意味で宍道といわれたとある。境内にはこの伝承となったといわれる3個の巨石があり、『出雲国風土記』に記された「犬石」「猪石」と推定されている。 女夫岩遺跡は石宮神社と同様、『出雲国風土記』記載の宍道郷の地名起源に登場する所造天下大神命(あめのしたつくらしのおおかみのみこと)が追った「猪像」と見る説があり、風土記の神話伝承と現存する遺跡が合致する可能性をもつ場所でもある。女夫岩は「女夫岩さん」と呼ばれる2個の巨石で、大きさは、北側の石が高さ4m以上、南側の石が高さ4.5m以上ある。周辺の調査によって古代の祭祀に使用されたと考えられる古墳時代中・後期頃の土師器、須恵器片などが出土した。遅くとも5世紀中頃に遡る巨石に関わる祭祀遺跡であり、風土記記載の地名伝承に関わる遺跡として注目される。			
	地形・地質、生物・生態等	石宮神社は、約1400万年前に火山砕屑物の砂が堆積してできた来待層(一般的に来待石という)が露出する場所に創建されている。来待石の風化によってできた岩塊が境内にあり、鳥居の両脇にある2つの岩塊は猪石、拝殿の奥の岩塊は犬石として祀られている。それらは『出雲国風土記』のなかに大穴持命(おおなむちのみこと、大国主命のこと)が狩をされたとき追いかけられた猪と追いかけた犬と記されている。なお、風土記研究者の間には宍道町白石にある女夫岩を猪石とする説もある。 女夫岩遺跡は2つの岩塊よりなるもので、古くから巨石信仰の対象として祀られてきた。どちらも丸味をおびた流紋岩質の小礫を含む細礫岩である。約1600万年前の石英質砂岩層の中に薄く挟まれたような堆積岩で、その異質な産状や分布は地質学的にも興味深い詳しいことはわかっていない。			
写真・図等					
参考文献					